

JAさつま日置 SDGsへの取り組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは・・・

持続可能な開発目標（SDGs）は、国連サミットにて採択された国際的な取り組み目標で、「誰一人取り残さない社会の実現」を目指し、経済・社会・環境の課題に取り組むものです。その達成には途上国・先進国を問わず、また、政府だけでなく、民間の団体・企業の役割も求められており、協同組合の役割も期待されています。

JAグループでは、「JAグループ SDGs 取組方針」を定め、SDGs の達成に向けて、事業・活動に取り組むことを宣言しました。JAグループ鹿児島でも、これまで相互扶助の精神で、地域に根ざして行ってきた事業や活動は、基本的に SDGs の理念に直接的に関与しているとの考えのもと、SDGs の達成に貢献する取り組みを展開していきます。



次のページからは当JAのSDGsへの取り組みを紹介していくよ！

※複数の「SDGsの目標」該当する取り組みもありますが、1つのみ選択して掲載しています。

～主な取り組み～



【国連の目標】あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
《当JAの取り組み計画》

- 組合員の所得向上
- 金融・共済サービスの提供

さつま日置のお茶がスタート！イベントでPR！

当JA管内の新茶の収穫が4月上旬に始まりました。JA管内では茶工場35棟が463%で栽培。今年産は共販量1600ト、共販額11億110万円を計画しています。

伊集院町・松元町で約1050㍎の茶を栽培する船迫淳日置市茶業振興会長は、「今年も青々と色鮮やかな良いお茶ができた。手塩にかけた安心安全なおいしいお茶をぜひ味わってほしい」とPRしました。

一番茶の出荷は5月上旬頃まで続き、二番茶は5月下旬から始まる見込みです。

また、当JA職員と日置市役所職員は4月25日、白波スタジアム（県立鴨池陸上競技場）で行われた「鹿児島ユナイテッドFC」と「テゲバジャーロ宮崎」の試合で、訪れた観客にほうじ茶をプレゼントしました。

コロナ禍で消費が減っている日置茶の消費拡大と販売促進が目的。ほうじ茶は2種類、2千個を配布。新茶の販売も行い、日置茶のPRを図りました。

茶を配布した関係者は「今回のようなイベント等で積極的にお茶をPRし、日置茶の消費拡大に繋がりたい。おいしいだけでなく、免疫力を高めてくれるお茶をぜひ多くの人に飲んでほしい」と話しました。



お茶を収穫する船迫さん(伊集院町)



日置茶をPRするJA職員と日置市職員

農政連 生産者の経営安定を目指す

県農政連さつま日置総支部は3月6日、当JA本所で第13回通常総会を開催。

生産者部会や青年部会、女性部会の代表者など約50人が出席しました。

令和2年度は、新型コロナウイルスやさつまいも基腐病の影響を受けた生産者への支援対策の確保に取り組んだことを報告。

出席者からは、食用米価格の低下やさつまいも基腐病への懸念の声が出され、令和3年度に向けても、引き続き生産者の経営安定や経営基盤強化に向けて取り組むことを確認しました。



開会のあいさつをする宇都総支部長

大麦出荷・検査スタート！

令和3年産二条大麦の出荷及び農産物検査が5月13日から、当JA金峰ライスセンターで始まりました。

JA農産物検査員など13人が粒の大きさ・容積・形状を検査します。

JA管内では、生産者16人が約100%で栽培。今年は寒暖差が大きかったため、生育は例年より約2週間早く、収量増・高品質が期待されます。6月中旬まで出荷は続き、約250トの検査を予定しています。



麦を検査するJA農産物検査員



農政協議会幹事会 今後も行政と 一体となった取り組みを

7月9日、さつま日置農協農政協議会幹事会を開き、JA役職員や行政など30人が出席しました。

JAのコロナ対策支援や令和3年度の園芸農産・畜産事業などについて報告。産地の維持・拡大に向けた事業の継続や、農業飛散防止の取り組み等、今後も関係機関と連携することを決めました。



話し合う参加者



青年部が県地域振興局と 意見交換

JA県農協青壮年組織協議会は7月5日、鹿児島地域振興局との語る会を初めて開きました。

当JA青年部会や県青協委員、鹿児島みらい青年部会員の14人が出席。各農産物の生産振興策や補助事業、人手不足対策など青年部会員が感じている地域農業の課題や要望について話し合いました。



活発に意見交換する参加者



【国連の目標】飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

《当JAの取り組み計画》

- 管内の農業の振興と食料の安定供給
- 高齢者等への配食事業



完熟春かぼちゃ 出荷始まる!

当JA管内で春かぼちゃの出荷が5月下旬から始まりました。

JA管内では北部と南部のかぼちゃ部会員約120人が11.4%で栽培。今年は4月の平均気温が高く、下旬に雨が降ったため、令和3年産は色鮮やかで形が良く大玉傾向で、熟度が乗り良好な品質。約114tの出荷を計画しています。

約30%の「くりゆたか」を栽培する堀明人同南部会長は「おいしいかぼちゃをぜひ食べてほしい」とPRしました。中京地区へ出荷し、7月上旬まで続く見込みです。



かぼちゃを収穫する堀部会長



出荷される春かぼちゃ



栽培方法説明 園芸への興味高める

当JAは、小規模農家や家庭菜園に興味のある方向けに、定期的にJA管内各地区で園芸講習会を開いています。

3月19日には、日置市伊集院北地区公民館で開き、地域住民など12人が参加。にんじんの土寄せは葉にかからないようにすることや、玉ねぎは収穫2ヵ月以内に追肥しないこと等、様々な野菜の栽培方法や注意点について2人の指導員が説明しました。

山口武流宮農指導員は「この講習で生産者の栽培技術を更に高め、生産者の増加に繋がりたい」と話しました。



野菜の栽培方法や注意点を説明する堀之口指導員



安心できる農産物を 消費者へ

当JA野菜部会協議会は5月28日、JA伊集院支所で第27回通常総会を開き、会員代表者とJA職員12人が出席しました。

令和3年度計画などを協議し、農薬使用基準の遵守による安心・安全な農産物供給などに努めることを決めました。

また、令和3年度からの新会長に横山義晴さんが就任し、「市場との契約取引拡大等に努めたい」と話しました。



意気込みを話す横山新会長



木花館春の感謝祭 抽選で農作物プレゼント

道の駅きんぽう木花館は4月29日、春の感謝祭を開催。キャベツやブロッコリー等の青果の特売のほか、花や骨とう品などが並ぶ軽トラ市、飲食ブースでは当JA職員がうどんとそばを販売し、多くのお客様で賑わいました。

また、500円以上ご購入の方に抽選券を配布し、当日は約100人のお客様に牛肉や石蔵米など豪華賞品をプレゼントしました。

マンゴーに当選した方は「妻と食べるのが楽しみ」と喜びを話しました。



お客様で賑わう木花館

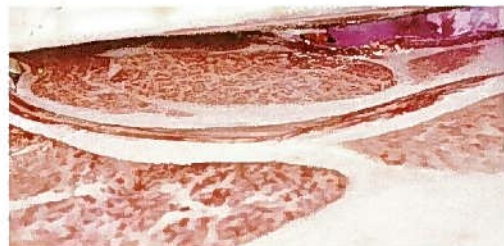


(有)川路牧場の「加奈姫11」 見事1席!

鹿児島中央畜連は4月12日、(株)JA食肉かごしま南薩工場で第80回鹿児島中央地区肉牛枝肉共進会を開き、牛38頭が出品。審査の結果、当JA管内の(有)川路牧場(日吉)が出品した黒毛和種の去勢、「加奈姫11」が最優秀賞1席に輝きました。

審査基準として、肉質のキメ・しまりや光沢があり、ロース芯が大きい枝肉が良い肉とみなされます。「加奈姫11」の枝肉重量は564.4キログラム、ロース芯面積92平方センチメートル、総合等級A5を記録しました。

同JA管内の受賞者は次の通りです。
▽最優秀賞2席＝(株)尾崎牧場(串木野)▽最優秀賞3席・旨味賞・次世代改良賞＝椋園千年(伊集院)



見事1席に輝いた(有)川路牧場の「加奈姫11」



畜産共進会 管内の牛多数入賞!

5月21日、鹿児島中央家畜市場で鹿児島中央地区春季畜産共進会が開かれ、牛51頭が出品されました。

体積の幅が広く伸びが良いこと、体上線が平直な牛ほど評価されます。

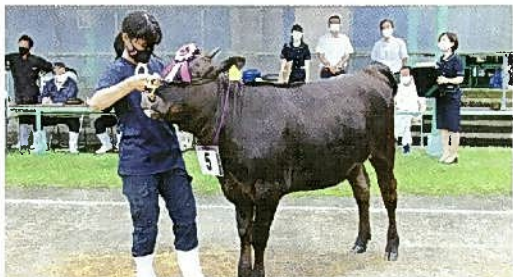
県畜産試験場大家畜部長兼肉用牛研究室長の川畑健次さんは、若雌の審査講評で、「全体的に発育が良く、特に上位の牛は、体上線が平直で肩の作りがしっかりとした牛が多かった」と評価しました。

出品者の成績は以下の通りです。

▽第1部若雌：1席＝県立市来農芸高校(いちき串木野市)、2席＝(有)おおく畜産(鹿児島市)

▽第2部若雌：1席＝久保吾郎(日置市)、2席＝県立市来農芸高校

▽第3部父系群：1席＝「華忠良の組」畜産サポート串木野農場・県立市来農芸高校・(株)赤岩畜産(いちき串木野市)



1席に輝いた県立市来農芸高校の「みちひめ33」



恒例の苗市 今年也大賑わい!

当JA松元支所は4月14～15日、同支所のPRと松元地区の農業生産拡大を目的に12回目となる苗市を開きました。

ナス、ミニトマト等の野菜や、サルビア、千日紅などの花苗約2600本を販売。箱一杯に苗を買うお客様が数多く見られました。



お客様で大盛況の苗市



甘くておいしいハウスみかん 出荷スタート！

当JA果樹部会ハウスみかん部会は6月29日、日置市東市来町の片平勇作さんの園地で「ハウスみかん鉄入れ式」を開き、生産者やJA、行政関係者など約40人が出席。テープカットで収穫を祝いました。

JA管内は生産者7人が161畝を栽培し、今年は67トンの出荷を計画。

同部会は色つきが早く、糖度上昇に期待がもてる「かごしま早生」の植栽を平成15年からすめ、令和3年産は同品種の栽培面積が9割以上を占めます。

また、①糖度12度以上②クエン酸0.8%以下の厳選品を「ハウスパングリン」として出荷します。

7月中旬から下旬にかけて出荷ピークを迎え、販売は8月お盆前までの見込み。

片平さんは「今年は日照不足で生育が心配されたが、梅雨の合間に晴れたおかげで、十分な甘さに育った。丹精込めた甘くてビタミンC豊富なハウスみかんを、ぜひ味わってほしい」とPRしました。

同日、13回目となる「かごしまの農林水産物認証制度」の認証証書を受領しました。



出荷を控えたハウスみかん



ハウスみかんをPRする片平さん(左)と能勢JA常務



さつま日置フェア 自慢の農産物販売！

7月17日、おいどん市場与次郎館でJAさつま日置フェアを実施しました。

ハウスみかんや金峰コシヒカリのほか、ナス・南瓜・じゃがいも等の野菜を販売。また、JA管内産の南瓜とお茶を使った女性部会手作りの「かぼっ茶プリン」は大好評につき完売しました。

そのほか、干し椎茸の詰め放題コーナーや、お楽しみ抽選会も実施し、多くのお客様で賑わいました。



お客様で賑わったフェア



レイシ 出荷始まる

当JA管内で6月下旬からレイシ(露地)の収穫が始まりました。ハウス栽培を含め生産者45人で230畝で栽培。令和3年産は共販量62ト、販売額1557万円を計画しています。

岸本本幸JA営農指導主任は「梅雨入りが早く生育が心配されたが、6月末に晴れが続き、全体的に例年より大きく育った。レイシを食べて暑い夏を乗り切ってほしい」と話しました。

出荷は7月中旬～8月下旬にかけてピークを迎え、10月下旬まで続く見込み。県内の量販店等で販売されます。



出荷を控えたレイシ(串木野)



金峰コシヒカリ 出荷スタート！塩田県知事に贈呈

当JAは7月15日、南さつま市金峰町のライスセンターで令和3年産金峰コシヒカリ出荷式を開き、生産者や行政、JA関係者など約50人が初出荷を祝いました。

また、同JA金峰水稲部会は「安心・安全」に関する一定の基準を満たしているとして、12回目のかごしまの農林水産物認証制度の取得を更新しました。

共販面積は350㍍で、令和3年産は出荷数量1,350ト、4万5000袋(1袋玄米30*)を計画しています。

東馬場伸部会長は、「今年は大きな災害もなく、立派に成長。生産者が丹精込めた米が無事出荷できた。おいしさ輝く金峰コシヒカリを早く消費者に届けたい」と意気込みを話しました。

また、同部会は7月27日には、塩田康一鹿児島県知事へ新米を贈呈。「一粒一粒が大きく、もちもち感のあるおいしいお米ができた」とPRし、塩田知事は「米を食べると元気が出る」と話しました。



出荷される金峰コシヒカリを見送る参加者



新米を贈る東馬場部会長(右)と塩田知事



しょうが部会 栽培管理を確認

さつま日置農協しょうが部会は7月6日・9日、北・中・南部のブロック別現地検討会を開き、栽培管理を確認しました。

部会員や県・市・JA県経済連・JA職員が参加。

西元大介JA営農指導員は乾燥防止のための灌水の徹底や、病害虫や台風対策等の徹底を呼びかけ、根茎腐敗病などの病気の予防対策と発生時の対処方法も説明しました。



しょうがの栽培や病害虫対策について確認する参加者



郷土料理を残したい

当JA女性部会は8月24日、JAグループ鹿児島県のテレビ番組「MOGUMOGUふぁーむ」の収録に参加しました。

「お母ちゃんの味」をテーマに、JA管内の農産物を使って調理。がねや、といもがら(ハスイモの葉柄)と油揚げの酢の物など、地元の郷土料理を紹介し、9月4日に放送されました。

鉾之原法子部会長は「地元の農産物を使った郷土料理を食べれば地産地消に繋がり、遠方においても故郷を思い出せる。地元の料理を子どもたちに伝え、後世に残していきたい」と話しました。



郷土料理を紹介した女性部会員



新米初売り 大盛況！

道の駅きんぼう木花館で、7月17～18日、金峰コシヒカリ石蔵米の初売りフェアが開かれました。

多くのお客様で賑わい、5*入り200袋が完売。同館の仮屋公志支配人は「粒が大きく、粘りと香りが強い金峰コシヒカリを多くの方に食べて欲しい」と話しました。



買い物客で賑わう初売りフェア



極早生みかん 出荷スタート！

当JA果樹部会温州みかん部会は9月3日、極早生温州みかん出荷協議会を開き、部会員や、JA営農指導員約30人が出席。外観などのお荷基準を確認しました。

令和3年産はやや大玉傾向で、JA管内のお荷は9月7日に始まっています。

極早生みかんは、皮は青いですが、中は甘く食べやすいと好評。特にマルチ栽培の「かごしま早生」という品種のうち、①糖度9.5度以上②クエン酸1.0%以下などの基準を満たす厳選品は「パングリン」としてお荷されます。約60%のかごしま早生を栽培する平松昭弘部会長は「8月の長雨が心配されたが、生育は概ね順調。糖度上昇のため、水切りを徹底した。今年もおいしいみかんができたので、たくさん食べてほしい」とPRしました。

JA管内では生産者33人で栽培し、今年65トンのお荷を計画。県外を中心に東京・横浜・大阪市場にお荷し、9月下旬まで続く予定です。また、県内ではJA管内Aコープで販売されます。当JAは光センサー選果機で果実1個ずつの糖度・酸をチェックし、品質にばらつきがないようお荷しています。



極早生みかんを栽培する平松部会長



お荷基準などを確認する部会員・JA職員



柔らかくトロリと 甘い縞ナス

当JA管内で縞ナスの収穫が6月下旬から始まりました。

JA管内では、さつまとろなす部会の生産者3人が80%を栽培。令和3年産は共販量10トンを計画しています。

山下浩太郎JA営農指導主任は「今年7～8月に雨風が強く生育が心配されたものの、大きく艶があり、柔らかく、とろみがあるおいしいナスに育った。日置産のおいしい縞ナスを、ぜひ多くの人に食べてほしい」とPRしました。

お荷は7月上旬から8月下旬にかけてピークを迎え、9月下旬まで続く見込み。

九州を中心に、量販店等で販売されます。



お荷を控えた縞ナス



全国大会に向けて 雌牛の成育確認

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会鹿児島中央地区集合調査会が9月17日、鹿児島中央家畜市場で開かれ、日置市・鹿児島市・いちき串木野市から集められた繁殖雌牛24頭を調査しました。

同会は来年開催予定の全共に向けて牛の成育状況を調査するもの。審査員は、栄養度・体積・均称(体型のバランス)、体の幅や伸び、体型の充実度などを確認しました。

(公社)全国和牛登録協会鹿児島県支部の草野昭徳事務局長は、「体の幅や伸びが良い牛が多かった。全国大会に向けて今後も取り組みを強化してほしい」と講評しました。

今回参加した、日置市畜産青年部の尾堂武志部会長は「成育は順調で、体幅があり、肋骨の張りも良い。大会に向けて、出産前後の体型の維持や、きれいな姿勢にも気を付けたい」と意気込みを話しました。

また同日、6産以上、ロース芯面積が推定A以上などの条件を満たした牛を、連産性・産肉性があの優秀雌牛として表彰。当JA管内では、(株)ホカヤシキ(日置市)の「さきこ72」が表彰されました。



雌牛を調査する審査員



優秀雌牛の表彰を受ける(株)ホカヤシキの代表者



普通期米 収穫スタート!

当JA管内の普通期米の収穫が10月上旬から始まりました。

令和3年産の主食用は共販数量約4,000袋を計画。収穫は11月まで続き、新米は県内Aコープ等で販売されます。

JA営農経済部の吉富電樹部長は「今年は天候がよく、昨年より収穫が1週間早まった。光沢があり、甘みがおいしく育った米を消費者へ早く届けたい」と話しました。



収穫を控えた田んぼ



甘くて色鮮やか! ミニトマトをテレビで紹介!

当JA管内吹上地区でミニトマト9畝を栽培する鶴田浩志さんは10月22日、JAグループ鹿児島のテレビ番組「MOGUMOGUふぁーむ」に出演。10月30日にKKB鹿児島放送で放映されました。

番組では、ミニトマトの栄養素や新鮮な物の見分け方などを紹介。鶴田さんは「良い土づくり、減農薬を心がけている。お客様が笑顔になる物をつくりたい」と話しました。



ミニトマトをPRする鶴田さん



園芸への始めの一步

10月8日、日置市伊集院北地区公民館で園芸講座が行われ、当JA営農指導員が講演しました。

栽培に興味を持ってもらい、JAの直売所などへの出荷者増加へ繋げることが狙い。今回は、地域住民など13人が参加し、JA営農指導員は、「間引きは生育状態を均等にするため、大きさが不揃いの物も取ること」等、10~11月の様々な野菜の管理方法や注意点を説明しました。



栽培における注意点を説明する指導員



出荷前に規格確認 生姜出荷協議会

10月26日、令和3年度産契約生姜出荷協議会が当JA吹上支所で開かれ、生産者や同社関係者など約40人が出席しました。

当日は、収穫時の注意点や大きさ等の出荷規格を確認。また、JA営農指導員が実際に生姜を見せながら、茎の切り方や箱詰め方法を説明し、品質・規格の統一を呼び掛けました。



茎の切り方などを確認する参加者



来年の全共へ向けて 牛の育成状況調査

11月1日、第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会に向けた集合調査会が始良中央家畜市場で開かれました。

当JA管内からの3頭(久保吾郎さんより高等登録群)を含む、県内各地区から30頭が出品され、栄養度・体積・均称(体型のバランスの良さ)、体の幅や伸びがどうか等を審査しました。



審査に臨む出品牛



124年の伝統！ 米の出来見る坪刈り

日置市日吉町の樺木集落は10月6日、集落内の田んぼで坪刈りを行いました。

一坪あたりの収量で今年の出来を見る伝統行事で、今年で124回目。今年には生産者7人分を計り、収量1位だった岩井田東さんは10坪換算して544.2kg、昨年1位の記録より約100kg多い収穫となりました。



米の収量を計る参加者



普通期米出荷 検査始まる

当JA管内の令和3年度普通期米の出荷が10月上旬に始まり、10月12日、JA東市来ライスセンターで検査目揃え会を行いました。

当日は、JA農産物検査員など約20人が、水分量・粒の大きさや形のきれいさ(形質)・被害粒の有無などの品質を確認し、等級を格付けしました。



米の大きさ等を見る検査員



橋口勝利さんの 「瀬戸波」上位入賞！

JA県経済連は11月8日、令和3年度県肉牛枝肉共進会を開き、県内から牛80頭が出品。

審査の結果、当JA管内の橋口勝利さん(市来)の黒毛和種の去勢「瀬戸波」が最優秀賞の5席に輝きました。

その他JA管内の受賞者は次の通りです。

- ▽最優秀賞＝
銚尾錦牧場(申木野)、
櫻園千年(伊集院)、
備川路牧場(日吉)
- ▽優秀賞＝
山崎正治(金峰)



最優秀賞に輝いた橋口勝利さんの「瀬戸波」



大人気の大將季！ 今年も鮮やかに実る！

当JA果樹部会施設中晩柑部会は11月24日、日置市東市来町の平松博幸さんの園場で令和3年度加温大將季鉢入れ式を開き、鮮やかに実った大將季を収穫しました。

今年は3L中心で玉太り良好、1月中旬まで出荷され、東京・大阪、県内ではJA管内Aコープを中心に販売予定です。



鮮やかに実った大將季を収穫する平松さん(右)と能勢JA営務



田代産大豆 おいしい味噌に

農事組合法人田代ビレッジは、日置市東市来町の田代地区で平成19年から大豆栽培、令和2年から変栽培を開始しており、今年も順調に収穫。味噌に加工し、当JAのAマート田代店で販売予定です。

同職員は「多くの人に食べて頂き、田代にいい物があることを知ってほしい」と話しました。



大豆を収穫する同法人職員



いちご出荷に向けて 基準確認

当JA東市来いちご部会は11月24日、出荷協議会を開き、部会員やJA職員など14人が出席。

令和3年産の栽培状況の報告、出荷要領やサイズ、パックの詰め方等の出荷基準を確認しました。

JA管内の「さがほのか」は11月24日から出荷され、27.4㍑の出荷見込み。「さつまおとめ」は12月下旬から出荷され、4.6㍑の出荷を見込みます。



サイズ等の出荷基準を確認する参加者



新牛舎落成！繁殖素牛増頭に努める

当JA畜産サポート(株)は繁殖素牛増頭のため、日置市伊集院町に牛舎を新設。11月18日に落成式を開きJA役職員、同社社員など約30人が出席しました。

新牛舎では、作業通路を一本にして作業効率を高めたほか、屋根を高くして通気性を良くするなど飼養環境を整えました。2022年4月までに育成牛42頭を飼育予定です。



牛舎の落成を祝う参加者



落成式を祝った関係者



さつま日置フェア 自慢の農産物販売！

12月27日、さつま日置フェアをおいどん市場与次郎館で開き、青年部会員や当JA役職員が参加。JA管内の大將季や白ネギなどの農産物や、道の駅きんぼう木花館で人気の蕎麦を販売し、多くのお客様で賑わいました。

また、抽選会や購入者プレゼント等でお客様にJAの農産物をPRしました。



農産物を販売するJA関係者



いちご農園オープン 園児がいちご狩り

当JA管内各所でいちごの観光農園が開園しています。

いちき串木野市大里の「いちごハウス木場」は、12月15日に開園式を行い、同市立市来幼稚園の園児たちがいちご狩りを楽しみました。

また、日置市市来町の片平観光農園は、1月5日に開園式を実施。伊集院町の清光保育園の園児たちがいちご狩りを楽しみ、JA関係者など約70人がいちご形のくす玉で開園を祝いました。

いちごハウス木場の木場俊介さんは「園児たちの笑顔と“おいしい”の声で、いちごの出来を確信した」、片平観光農園の片平清美さんは「9月以降晴れが続き、艶があり、甘くおいしいいちごができた」と話しました。



いちご狩りを楽しむ園児(いちごハウス木場)



両手いっぱいいちごを獲る園児(片平観光農園)



図画コンクール 伊集院小の柳くんを表彰

JAグループ鹿児島による米食推進を目的とした、第38回県「ごはん・お米とわたし」図画コンクールが行われ、日置市立伊集院小学校の柳明仁くんが県教育委員会賞を受賞。

12月23日、能勢新市JA常務が訪問し、表彰状や記念品を贈呈しました。

柳くんの作品は、以前住んでいた徳之島で見た田んぼの畦道を牛が歩く風景を描いたものです。



県教育委員会賞に輝いた柳ちゃんと能勢JA常務



柳くんの作品「今年も豊作だ！」



県内一早い！ 金峰コシヒカリ種まき

超早場米「金峰コシヒカリ」の種まきが1月7日、南さつま市金峰町で始まりました。

当日は、約80℃(3.5℃分)の種もみを自動播種(はしゅ)機で育苗ポット約1800枚にまきました。当JA金峰水稲部会の東馬場伸部会長は「近年は品質、収量ともに安定。地域一丸となりブランド米を守りたい」と話しました。

今年は金峰町で約500畝を作付予定。約2300トンの収量を見込んでいます。

なお昨年9月にかごしまブランドに初めて認定されました。



種もみをまく関係者



こだわりのぼんかん 「薩州薩摩」いよいよ出荷！

当JA果樹部会は1月21日、いちき串木野市の市来神社で、「本格貯蔵 薩州薩摩」祈願祭と出発式を開き、生産者やJA役職員が出席しました。

令和3年産は長雨が続きましたが、9月以降天気に恵まれ生育は良好です。

生産者代表の松島吉郎さんは「糖度が高く柔らかくておいしいぼんかんを、ぜひ味わってほしい」とPRしました。

同部会は昨年12月に11回目の「かごしまの農林水産物認証制度(K-GAP)」を取得。ぼんかん品種「薩州」の中でも「薩州薩摩」は、糖度12度以上、クエン酸0.9%以下の厳選品です。



薩州薩摩をPRする松島代表

2



JA女性部会が 豚汁で畜産を応援

当JA女性部会は1月17日、鹿児島中央家畜市場で行われた子牛せり市にて、手づくりの豚汁を振る舞いました。

10月に全国和牛能力共進会鹿児島大会を控えた畜産農家の応援、日頃の感謝を伝えるため実施。

JA管内産の豚肉や大根などを使い、200食を配布しました。



豚汁を振る舞う女性部会員

2



今年初の子牛せり 最高は114万円

1月17日、鹿児島中央家畜市場で今年初の子牛せり市が開かれ、去勢199頭、雌139頭の計338頭が上場。血統の良い牛や発育の良い牛に高値がつけられました。

最高価格は去勢105万3000円、雌114万円。

平均価格は去勢71万4487円、雌60万5139円で、総平均価格は66万9902円で競り落とされました。



多くの購買者が訪れた初せり

2



サワーポメロ まもなく出荷！

当JA管内でサワーポメロの収穫が始まりました。JA果樹部会中晩柑部会の西拓部会長は「9月以降晴れが続いたおかげで、外観がきれいで爽やかな甘さおいしい果実ができた」と話しました。

また、同部会は1月21日、JA北部営農センターで令和3年産サワーポメロ出荷協議会を開き、同部会員やJA職員が出席。出荷要領を確認し、防除・貯蔵の管理の徹底を呼びかけ、計画的出荷で有利販売に努めることを決めました。

JA管内では生産者20人が約500㎡で栽培。3月上旬から下旬まで出荷を見込み、県内量販店や同営農センターで購入できます。



管理の徹底を呼びかける西部会長(左)

2



甘みのある白ねぎ 出荷最盛！

当JA管内で白ねぎの出荷が最盛期を迎えています。

JA管内では、生産者45人、19℃で栽培。

令和3年産は共販量285t、販売額7000万円の計画で、10月の干ばつの影響でやや細いが、寒にあたり甘みがおおいしく育っているとのこと。

出荷は6月末まで続く見込み。鹿児島県含む西日本へ出荷され、県内ではAコープ、量販店などで販売中です。



白ねぎの選米作業

2



鹿児島独自の風習 「七所の雑炊」

当JA女性部会市来支部員とJA市来支所職員は1月7日、市来地区の7歳になる児童へ七草粥を配布しました。

7軒のお宅からお裾分けしてもらった風習「七所の雑炊」にならい、部会員7人がそれぞれ調理した七草粥を準備。

今屋良三支所長は「子どもたちに喜んでもらえてよかった。1年間元気に過ごしてほしい」と話しました。



七草粥を受け取る児童

2



家畜に感謝する畜魂祭 初の成牛せりも実施

鹿児島中央畜産は1月15日、鹿児島中央家畜市場で畜魂祭を開き、生産者やJA役職員が参加。玉串などを奉奠し、家畜の健康や魂を鎮めるため祈りをささげました。

また、当日は今年初の成牛せり市が開かれ、JA管内の雌4頭が上場。最高価格は46万円で、平均価格は39万1500円で競り落とされました。



家畜への感謝と健康を祈る参加者



【国連の目標】あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

《当JAの取り組み計画》

- 高齢者等のケア事業 ●健康づくり、介護予防活動 ●子育て関連事業
- スポーツ・文化・療養に関わるサービスの提供



3

すべての人に
健康と福祉を

日頃の感謝を込めて農畜産物プレゼント！

当JAは組合員・地域住民への感謝を込めて、農畜産物が当たる「ありがとう」キャンペーンを実施。2月12日に当JA本所で贈呈式を開き、当選者へ賞品を贈りました。

鹿児島黒牛・黒豚や大将季、野菜の詰め合わせなど、様々な農畜産物をプレゼント。1490人の応募の中から200人が当選されました。

当日は、特賞に当選された方に1人あたり3万円分の農畜産物を手渡し、当選者からは驚きと喜びの声が上がりました。

宇都清照組合長は「今年はイベント開催が出来なかったが、少しでも皆様に日頃の感謝を伝えたいと企画したキャンペーン。今後もJAへのご理解・ご協力をお願いします」と挨拶しました。



特賞当選者へ賞品を贈呈する宇都組合長



特賞賞品



3

すべての人に
健康と福祉を

ウォーキングで 健康維持

当JA女性部会は4月23日、日置市吹上浜公園で、「目指せ！健康寿命100歳ウォーキング大会」を開き、今年は部会員95人が参加。公園内を気持ちよく歩きました。

また、講師に厚生連健康運動指導士の方をお呼びし、歩き方のご指導を頂きました。



笑顔で歩く部会員たち



3

すべての人に
健康と福祉を

女性部会 キャンドル 作りで親睦深める

当JA女性部会フレッシュミズは5月27日、日置市日吉町で「フレッシュミズスマイリングつどい」を開きました。

令和3年度の活動計画について協議後、共同学習としてキャンドル作り挑戦。色とりどりのロウを瓶に重ねて「にじいろキャンドル」を作りました。



色鮮やかなキャンドルを作る部会員

3

すべての人に
健康と福祉を

「生活文化教室」と 「きずな応援隊」合同研修会

当JA女性部会は3月26日、「生活文化教室」33グループの代表者や「きずな応援隊」など約40人が集い、合同研修会を開きました。

研修会では、体操や手芸など各グループの令和2年度の活動を報告。

また、共同学習では、家の光講師で管理栄養士の長友ゆかり先生が、健康で活力に満ちた毎日を送るための食生活をテーマに「食の学習会」を実施。災害時に用意すべき、必要な栄養素を補う食品や、免疫力アップで新型コロナに負けない体を作る食材、栄養素を生かす食べ方などを説明し、参加者は真剣に聞き入り、栄養たっぷりのおいしい料理にとっても喜びました。



昨年の活動を報告する参加者

3

すべての人に
健康と福祉を

女性部班長会 今年の計画を確認

当JA女性部会は3月2日～12日、各支部で班長会を開き、委員・班長など9支部合計約170人が参加しました。

令和2年度活動の報告や、令和3年度上期活動計画として、生活文化教室代表者ときずな応援隊の「合同研修会」や、「チャリティーウォーキング大会」の内容を協議。令和3年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症予防を徹底し、活動を進める予定です。



話し合う参加者(串木野支部)

3

すべての人に
健康と福祉を

熱戦！ ソフトボール大会

当JAは7月22日、日置市東市来総合運動公園で第23回JA旗争奪少年ソフトボール大会を開催し、JA管内の小学生13チームが参加。吹上ソフトボールスポーツ少年団が見事優勝しました。

その他の結果は次の通り※チーム名称簡略
▽準優勝＝汐見(串木野)▽3位＝鶴丸(東市来)、郡山▽MVP賞＝田重田蓮くん(吹上)



優勝した吹上ソフトボールスポーツ少年団と関係者

3

すべての人に
健康と福祉を

健診受けよう コースター配布

厚生連健康管理センターは、女性部会活動紹介のため、人間ドック受診者へ同部会手作りの小物をプレゼントする企画を開始。

当JA女性部会フレッシュミズのハンドメイド教室「アナベル」は、手作りコースターを200枚作製し9月中旬からプレゼント。一針一針想いの込められた色とりどりのコースターに、受診者の方々はとても喜ばれました。



配布された女性部会員手作りのコースター



一球入魂！小学生バレー大会白熱！

当JAは1月16日、JA杯小学生バレーボール大会を伊集院総合体育館で開きました。JA管内から女子の部4チーム・混成の部7チームが参加。熱戦の末、女子の部は瀧田チーム（東市来）、混成の部は伊集院V6Aチームが優勝しました。伊集院V6Aチームの尾長谷将大主将は「声を掛け合い、全員が1球ごとに集中したから勝てたと思う。今後も練習に励みたい」と話しました。

その他の結果は以下の通りです。

- ※チーム名省略
- ▽女子の部 準優勝
= 妙円寺（伊集院）
- ▽混成の部 準優勝
= 松元（鹿児島市）



混成の部優勝の伊集院V6(A)



女子の部優勝の瀧田



祝優勝！神村女子サッカー健闘讃え牛肉贈る

当JAは1月14日、全日本高校女子サッカー選手権で16大会ぶりに優勝した神村学園高等部女子サッカー部に牛肉を贈呈し、活躍を讃えました。

能勢新市JA常務は「愛川主将をはじめ、JAが聞く小学生サッカー大会で活躍した子どもたちがこのように大きくなり、日本一になったことはとても喜ばしい。次のステージでも頑張してほしい」と祝福しました。

同部は、夏のインターハイでも優勝しており、チーム史上初の夏冬2冠を達成しました。



鹿児島黒牛を贈呈したJA役員と神村学園高等部女子サッカー部員



もしもの時に救命処置学ば

当JAは11月12日、日置市日吉町の吉利多目的ホールで救急講習会を開き、JA介護・宅配給食職員などが参加。

日置市消防署南分遣所職員を講師に招き、緊急時の対応として心肺蘇生法や、AEDの使い方を勉強しました。



蘇生法の練習をする参加者



青年部会が子どもたちに農産物を寄贈

当JA青年部会は12月11日、日置市東市来町の児童養護施設「友愛学園」を訪問。大将芋や米、お茶などJA管内産の農産物9品に加え、当JAから県内産の農協ハムとソーシーを贈りました。また、子どもたちと農産物クイズで交流し、食と農の大切さを伝えました。



農産物を贈る部会員



地元の黒牛・黒豚食べて全国へ！JAが激励

当JAは12月14日、全国大会への出場を決めた神村学園高等部の駅伝部、男子・女子サッカー部、吹奏楽部、女子ソフトボール部の活躍を折り、鹿児島黒牛30頭、鹿児島黒豚22頭、ソーシーを贈りました。

比良常務は「地元のお肉を食べて、練習の成果を発揮してほしい」と激励しました。



農産物を贈呈する比良常務



小学生サッカー大会 白熱の好ゲーム！

当JAは11月3日、日置市東市来総合運動公園で、アグリカップ第26回JAさつま日置少年サッカー大会を開き、JA管内の小学生10チームが参加。熱戦の結果、串木野FCが見事優勝しました。

その他の結果は次の通り
※チーム名称
簡略
▽準優勝＝
東市来
▽3位＝市来、
伊作(吹上)



熱戦を制し笑顔の串木野FC



女性部手作り味噌 利用者へ

当JA女性部会は11月15～16日、日置市日吉農村センターで約220kgの麦味噌作りを行いました。

作った味噌はおいしい味噌汁となり、JAの配食サービスとして、高齢者の方へ弁当と共に届けられます。



麦味噌を作る部会員



仲間と楽しくプレー 女性部GG大会

当JA女性部会は、部会員の親睦と健康づくりのため、11月2～18日にかけて、各支部グラウンドゴルフ大会を開催。部会員は和気あいあいとプレーを楽しみました。



楽しくプレーする部会員

【国連の目標】すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

《当JAの取り組み計画》

- 学習支援事業
- 環境教育、生涯学習への取り組み
- 各種専門技術教育



市来農芸高校へ 農業機械贈呈

JAグループ鹿児島は2月8日、県立市来農芸高校で農業機械の贈呈式を行い、JA県中央会、学校関係者、当JA役職員など13人が出席。カッター式粉砕機(チップパー)を贈りました。

同校はこの粉砕機で葉や木材を細かく碎き、堆肥などに利用する予定。

倉岡八郎校長は「お贈り頂き大変ありがたい。授業や実習で使わせて頂き、次代の担い手を育成していきたい」と感謝の意を表しました。

JAグループ鹿児島は、未来の鹿児島の農業を背負って立つ農業高校生に農業資機材を提供する取り組みを行っています。



粉砕機を受け取る同校関係者(右)とJA役職員



生徒の門出を激励

当JAは2月16日、県立市来農芸高校「営農の門出を励ます会」に出席し、生徒の門出を祝いました。

会では田畑誠一いちき串木野市長が「目標を掲げ、急がず自分のペースで努力することが大事。初心を忘れずに活躍してほしい」と激励。

また、県立農業大学校畜産学部へ進学する中養母陸斗さんは「農機免許を取得し、牛の飼育技術を学んで、将来は和牛の飼育経営をしたい」と抱負を述べました。



農業関連への進学や就職を控えた生徒ら



県内一早い田植え 中学生が田植え機に挑戦!

南さつま市金峰町で2月22日、超早場米「金峰コシヒカリ」の県内一早い田植えが行われ、同市立金峰中学校の1年生約40人が田植えに挑戦。生徒たちは手植えの他、田植え機で、35%分の苗を植えました。

今年は例年より1週間ほど早く種まき。育苗期間を長くしたことで、丈夫な苗に育ちました。

田植え機に乗った有留真佑さんは「操縦は難しかったが楽しかった。給食では今日を思い出して、味わって食べたい」と笑顔で話し、田んぼを提供した東馬場伸さんは「地元でおいしいお米が早く食べられることを実感し、地元への自信と誇りを持ってほしい」と話しました。

金峰町では約500%で作付を計画。収穫は7月上旬を見込み、東馬場さんはお米を同市内の全小・中学校と養護学校の給食に寄贈する予定です。



田植えに挑戦する生徒



金峰中1年生 田車押し挑戦!

南さつま市立金峰中学校1年生48人は4月30日、同市金峰町の田んぼで、超早場米金峰コシヒカリの田車押しに挑戦しました。

田車を押すことで除草ができ、土を攪拌することで根に酸素をおくり開帳型の丈夫な稲に育ちます。生徒たちは冷たい水に悲鳴を上げながらも稲の成長を願って一生懸命取り組みました。



一生懸命田車を押す生徒たち



子どもたちにお茶の 楽しみ方伝える

日置市茶業研究会は2月、日置市立湯田小学校5～6年生約70人に、お茶の授業を行いました。

日本茶インストラクターの末永ひとみさんを講師に招き、お茶の産地や、甘み等を出す成分について解説。お茶の淹れ方も説明し、生徒たちは湯の温度を変え、味の違いを比べました。

5年生の中園紘平さんは「沸騰した湯で淹れた方が苦味がちょうどよく、スッキリしておいしかった。お父さんとお母さんにも淹れてあげたい」と笑顔で話しました。

また、末永さんは「淹れ方を変えて味を調節できるのが、自分でお茶を淹れる魅力。大人になってもお茶を楽しんでほしい」と話しました。

同会は授業に参加した生徒に急須とお茶を贈り、全校生徒へも約200袋のお茶を贈りました。



お茶の淹れ方を学ぶ生徒

5月のふれあい活動のご紹介

「ふれあい活動」の一環として、当JA職員が子どもたちへさつまいもや水稻苗の植え方を指導。また、青年部会員とJA職員がさつまいも植えを通して、交流を図りました。



5/11 伊集院北小 さつまいもの学習
みんな熱心に聞いてくれました



5/14・5/27 妙円寺小
さつまいもの学習(伊集院)
苗の植え方を学ぼう!



5/22 東市来地区JA青年部会と
JA職員がさつまいも植え
楽しく交流できました



5/25 田布施小 さつまいも植え(金峰)
教えてもらいながら、いざ糖付け!



5/28 阿多小 水稻苗植え(金峰)
大きくなーれ!



5/31 花尾小 さつまいも植え(郡山)
土中深くにしっかりと植えよう

**夏野菜大きくなーれ！
東昌小で食農教育**

鹿児島市立東昌小学校2年生8人は6月8日、夏野菜の苗植えに挑戦しました。「ふれあい活動」の一環で、当JA職員が野菜の植え方や害虫についてアドバイス。児童は丁寧にナスやミニトマト、オクラなど6種類の野菜を植えました。



植え方を教えるJA職員と児童

**SDGs シール
職員が名札着用**

当JAは、SDGsの達成に貢献する取り組みを展開しており、職員のSDGs意識を高めるため、この度、オリジナルシールを作製しました。




SDGsシール付き名札を着用した職員

**おいしい給食に！
金峰中稲刈り挑戦！**

南さつま市立金峰中学校1年生46人は7月13日、南さつま市金峰町の御楽馬場農場の田んぼで超早場米「金峰コシヒカリ」の稲刈りに挑戦しました。

生徒たちは生産者の教えの下、コンバインを操縦し、35分の稲を刈りました。

稲刈りをした松平梢希くんは「コンバインはガタガタ揺られて少し怖かったけど、稲が刈られていく様子が気持ちよかった」と話しました。

また、同農場の金峰コシヒカリは7月中旬、同市の全小・中学校の給食へ提供されました。



コンバインで稲刈りを体験する生徒

**鶴丸小
田植えに挑戦！**

日置市立鶴丸小学校の5年生33人は6月29日、東市来町養母の田んぼで田植え体験学習を行いました。

田植え体験は下養母自治会を中心に、養母の里づくり委員会やJA青年部会東市来支部が協力して行っており、今年で5回目。

児童は田んぼに足を取られながらも一生懸命に苗を植えました。

御供田佑月さんは「大変だったけど楽しかった。収穫が楽しみ」と笑顔。

同自治会長の住吉伸一さんは「米作りを通して収穫の喜び等を感じて、農業に関心を持ってほしい」と話しました。

10月には稲刈りと脱穀体験を行う予定です。



一生懸命田植えする児童

**「食と農」テーマに
子どもたちが絵を制作**

当JA吹上支所は、毎年、支所ふれあい活動の一環で、日置市立伊作小学校の児童に絵を描いてもらい、支所に展示しています。

今年は1年生31人が「食と農」をテーマに絵を描きました。

相星和志同支所長は「色とりどりの可愛い絵をたくさん頂き、お客様に大変喜んで頂いている。これからもふれあい活動に積極的に取り組み、地域の皆様との交流を大切にしていきたい」と話しました。



吹上支所に展示した色とりどりの絵画



女性部会とJA職員の つながりを大切に！

当JA女性部会とJAは10月上旬、「つながるWA！」プロジェクトとして、JA女性部会手作りのふくれ菓子430個をJA職員へ配布しました。

コロナ禍で活動の機会が少なく、接する機会も減少したことから、繋がりを強くするため、女性部会とJAで企画したもの。

配布したふくれ菓子には、家の光のオススメ記事を添付し、家の光の読み込み度アップを図りました。



配布された女性部会会員手作りのふくれ菓子とチラシ



事故に気を付けて 伊集院高校で交通安全教室

当JAは10月22日、県立伊集院高校で、JA共済の地域貢献活動の一環として、交通安全教室を開きました。

自転車と車の接触事故の再現等が行われ、生徒たちは交通安全に努めることの大切さを学びました。



事故を再現し、交通安全を呼びかけ



JAに親しみを 高校でJA講座

当JAは12月20日、県立市来農芸高校で協同組合(JA)講座を行い、2年生約50人が参加しました。

JAの地域での役割を知ってもらい、より親しみを持ってもらうのが狙いで、農家をサポートする指導事業や、児童への食農教育など、JAの事業を紹介しました。



JAの事業を学ぶ生徒たち



花尾小学校芋掘り 食と農の大切さ学ぶ

鹿児島市立花尾小学校の児童25人は10月29日、学校農圃で芋掘りに挑戦しました。

支所ふれあい活動の一環で、当JA職員も参加。生徒たちはスコップで、5月下旬に植えた「紅はるか」を一生懸命収穫しました。



楽しく芋掘りする児童



農の大切さ学ぼう 鶴丸小稲刈り挑戦

日置市立鶴丸小学校の5年生32人は10月26日、東市来町養母の田んぼで稲刈り体験を行いました。

下養母自治会のほか、養母の里づくり委員会や当JA青年部会東市来支部が稲刈りを指導し、児童は、バインダーや鎌を使い6分の稲を刈りました。



一生懸命稲刈りする児童



阿多小児童 料理に挑戦

南さつま市立阿多小学校の3年生と5年生は11月25日、JA生活指導員と共に手作り豆腐や、炊飯・味噌汁作りに挑戦。児童は豆腐を作る際の大豆の甘い香りや、ガラス鍋の中で米が甞る様を楽しみながら学びました。



豆腐作りを学ぶ児童



お茶のパワーとおいしさを次世代へ お茶授業

日置市茶業研究会は12月7日、日置市立伊集院小学校5年生約140人に、お茶の授業を行いました。

日本茶インストラクター協会職員を講師に招き、①お茶の効能を知る②おいしい入れ方を学ぶ③自宅でお茶入れ、片付けできることを目標に、児童はお茶の成分やおいしい入れ方を学びました。



楽しくお茶の入れ方を学ぶ児童



【国連の目標】すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する

《当JAの取り組み計画》

●農業従事者への各種支援



日置茶を海外へ！ ASIAGAP部会設立

ASIAGAP認証を持つ日置市全16茶工場が集まり、ASIAGAP HIOKI部会を設立。2月26日に設立総会を開きました。

ASIAGAPは、GFSI(世界食品安全イニシアティブ)から承認を受けたGAP認証制度で、食品安全・環境保全などの要素を満たし、食の安全などに取り組む個人・団体に与えられる認証。部会設立によりロットをひとつとすることで問屋との交渉力強化を図り、台湾など海外販路拡大に努めます。また、工場間の生葉受け入れ調整で連携強化を図ります。

川路到部会長は「消費者の期待に応え、日置茶の素晴らしさを伝えていきたい」と意気込みを話しました。



部会を設立した生産者やJA役員など



いちご品評会 1位は山下輝彦さん!

第13回日置市いちご部会果実品評会が2月16日に開かれ、厳正な審査の結果、1位の日置市長賞に山下輝彦さんが輝きました。

品評会には生産者代表や行政、JA県経済連、当JA役職員など約20人が出席。出品された31点のいちごの色や形、糖度、パックの詰め方などを審査しました。

鹿児島中央青果(株)の丸田大輔課長は「今年は良い品質の物が多く出品されており、甲乙つけがたい品評会だった。今後も安定的な生産と出荷に取り組んでほしい」と講評を述べました。

結果は以下のとおりです。

▽2位(県園芸振興協議会日置支部長賞) = 仲村雅史さん

▽3位(さつま日置農協組合長賞) = 奥和俊さん

▽特別賞(日置市いちご部会長賞) = 川路優治さん



31点のいちごを審査する参加者



新規就農者を激励

令和3年度日置地区新規就農者励ましの会が7月28日、鹿児島地域振興局日置庁舎で開かれ、同振興局員、行政、当JA役員など22人が出席。新規就農者の門出を祝いました。

当日は、補助金などの就農者への支援策の説明や、新規就農者の悩みや意見に対しアドバイスする場も設けられました。



新規就農者(前列)と参加者



お茶まつり 優秀生産者表彰!

令和3年度県茶業振興大会「2021かごしまお茶まつりin藤摩川内」が11月28日に開かれ、県内各地の茶業生産者が表彰されました。

当JA管内の受賞者は次の通り。

▽鹿児島県茶業功労者賞 = (故)池田高和さん(伊集院)、松下清美さん(松元)▽県茶経営改善コンクール県茶商業協同組合理事長賞 = 御宮下製茶(伊集院)



表彰を受ける生産者



【国連の目標】レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る

《当JAの取り組み計画》

- 農業におけるICT（情報通信技術）等の先進技術の普及・促進
- 産学・農商工連携による生産技術の向上や商品開発



ライスセンター竣工式 高能力乾燥機を導入

当JAは3月18日にJA金峰ライスセンターの竣工式を行いました。

JA役職員や県経済連、行政、工事関係者など約60人が出席し、竣工を祝いました。

式後、参加者は施設内を内覧し、新規導入した遠赤外線火力乾燥機や粳摺り機、色彩選別機を確認しました。

宇都組合長は「生産性の向上と集出荷体制の安定化を図り、持続可能な米の生産に努める」と話しました。

稼働は7月中旬を予定しています。



テープカットで施設の無事完成を祝う参加者

【国連の目標】都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする

《当JAの取り組み計画》

●高齢者、子ども等の「居場所」づくり

●地域の見守り、助け合い活動

ふれあい活動 コンクール実施

当JAは、地域活性化、組合員とのつながり強化を目的に、「ふれあい活動」を実施しています。さらなる「ふれあい活動」の活性化に向け、職員の意欲向上を高めるべく、令和2年度の取組を審査するコンクールを実施しました。

食農教育や地域・組合員との交流活動の「支所ふれあい活動部門」、各支所が発行する「支所だより部門」の2部門を審査。

上位の支所は、5月中旬の役職員研修大会で表彰する予定です。



支所だよりを審査するJA役職員

おごじょパワーで地域 づくり、食農教育に努める

当JA女性部会は4月5日、日吉支所で第29回通常総会を開き、部会員やJA役職員など約40人が出席しました。

今年度は、JA青年部会と連携した地域貢献活動、「日置娘のキッチン」等の食の学習会など、地域づくりや食農教育に力を入れることを決めました。



話し合う参加者

JA-SS 接客・店舗づくりで多数受賞!

今年も県内の「SSコンクール」で、当JA協同サポート側のJA-SSが上位を独占しました。

同コンクールはJA県経済連が主催。接客や店舗美化などを評価する「フル・セルフサービス部門」と「石油事業取扱部門」の2つを審査します。

今年は、同社の日吉SSが「フルサービスSS部門」で最優秀賞に輝き、5年連続の入賞。

また、「セルフサービスSS部門」で郡山SSが最優秀賞を受賞しました。

岡村浩希日吉SS所長は「これからもお客様が安心して利用できる店舗づくりに努めたい」と話しました。

他の成績は次の通り。

◇フルサービスSS部門▽優秀賞=阿多SS ◇石油事業取扱優秀SS▽受賞=吹上SS



上位入賞し笑顔の当JA-SS各所長



《当JAの取り組み計画》

●食の安全確保と情報提供



さつまいも産業に 役立てて！

当JAは、2月12日に行われた、県立市来農芸高校生物工学科植物バイオ専攻の生徒が育てた、焼酎用さつまいものウイルスフリー苗引渡し式に出席しました。

今年は基腐病対策として生産者からの需要が高く、昨年の倍以上の約5300本を受取り生産者へ供給しました。

2年生の長野佳奈さんは「これからも農家や地域産業に役立つ活動を続けたい」と話し、能勢新市JA常務は「素晴らしい苗を育てていることを誇りに、ぜひ農業に携わる道を選んでほしい」と笑顔で話しました。



ウイルスフリー苗を受け取った参加者と同校関係者



ソリダゴのコサージュで 卒業生祝う

当JAソリダゴ部会は3月24日、日置市の東市来・日吉・吹上地区の小学校8校の卒業式に日置市の特産花「ソリダゴ」を使ったコサージュを贈り、卒業生175人の門出を祝いました。

コサージュは同部会員などが作成し、ニオイヒバ、スプレーカーネーションも使って、ソリダゴの美しさを一層際立たせました。

東市来地区の鶴丸小学校の山之内陸さんは「ソリダゴを使った綺麗なコサージュで卒業を祝ってもらえて嬉しい。綺麗な花で式が華やかになった」と喜びました。

同部会は生産者14人が225アールで栽培。令和3年度は共販量138万本、共販金額56,993千円を見込み、ソリダゴの出荷は5～8月にピークを迎えます。



ソリダゴのコサージュに喜ぶ卒業生



牛乳を飲んで 酪農農家を応援！

コロナ禍での全国的な牛乳の消費低迷で、廃棄処分を余儀なくされる中、当JAは12月27日、酪農家を支援するため、職員約300人で県産牛乳の消費拡大を図りました。



牛乳を受け取る職員(左)



市来農芸高ウイルスフリー苗 地域産業に貢献

県立市来農芸高校は1月24日、焼酎用サツマイモウイルスフリー苗引渡し式を同校で開き、酒造メーカーや当JA役職員が出席。生物工学科植物バイオ専攻2・3年生が大切に育てた約4500本の苗をJA関係者が受け取りました。

ウイルスフリー苗は、生育が良く、形状が揃った良質な種子の確保が期待されます。

同校2年生の中原遼太郎さんは「農家や地域産業に役立つ活動を続けたい」と話し、能勢新市JA常務は「基腐病が問題になる中、ウイルスフリー苗を提供頂き大変ありがたい」とお礼を述べました。



ウイルスフリー苗を受け取るJA役職員



【国連の目標】陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

《当JAの取り組み計画》

- 生分解性マルチの普及
- 地域の清掃活動



美しい風景残そう！ 郡山にかかし展示

当JA郡山支所は、支所ふれあい活動の一環でJAキャラクターのヒオッキーをモチーフにした案山子を作製。南方案山子コンクールへ出品しました。

同コンクールは南方保全会が毎年開催するもので、昔ながらの田園風景を守ることが狙い。JAの案山子は職員と地域住民が協力し作製しました。

橋口浩支所長は「地域の景観維持のため、今後も貢献したい」と話しました。

今年は子ども・大人の部合わせて34点が、展示されました。



ヒオッキーの案山子とJA職員



地域とのふれあい きれいに清掃

当JA松元支所職員とJA青年部会員は11月13日、鹿児島市松元土地改良区主催の「ふれあい清掃in松元ダム」に参加。

地域住民と協力し、鹿児島市直木町の松元ダムや関連施設周辺の草払い等を行いました。



清掃の参加者



【国連の目標】持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

《当JAの取り組み計画》

- 「協同組合」というシステム自体によるパートナーシップの構築
- 自治体等との連携



地域活性化 地産地消にも励む

当JA青年部会は4月6日、第28回通常総会を開き、部会員やJA役職員、行政など約40人が出席。コロナ禍でも管内農産物のPR活動を行ったことなどを報告。令和3年度は、JA女性部会と連携し、農業振興・地域活性化を図ることを決めました。

また、役員改選で、新部会長に伊集院支部の尾堂武志さんが就任しました。



あいさつをする新役員